

生物多様性交流フェア活動報告

府立高津高校 3年 吉岡 剛毅

1 はじめに

生物多様性交流フェアについて

開催期間は10月11日の月曜日から10月29日の金曜日までで、
僕たちは10月24日日曜日に参加。

会場：白鳥会場、愛・地球博記念公園、栄地区

ステージ発表・ポスターセッション・ブース出展の3つに分かれていて、
僕たちはブース出展で参加。

参加動機は今までの活動が認められ環境省の依頼で参加することになった。

2 高津高校の発表の様子。

午前10時から分担してポスター発表をした。

展示位置がテントの一番奥だったのでそこまで見に来てくれる方は稀で、
興味を持ってもらうことの難しさを感じた。

発表の内容は、「大阪城内濠のプランクトン調査2009」。

説明者を代えてさらに詳しい説明をし、色々なプランクトンも紹介した。

テント前の通りに出て説明をすることもあった。

突っ込んだ質問をして下さる方もおられて答えるのが難しかったけれども、
充実した発表になった。

ほとんど全員が初めての発表で緊張もしたが、良い経験になった。

会場では日本だけでなく外国の方のブースもあり国際的なイベントなんだと実感した。

また、着ぐるみを着て宣伝していたり、子供でも楽しめるように考えられていたり、

iPadなどの最新機器を使い効率よく説明できるように

しているところもあった。

一般の方にもきちんとわかってもらえるように工夫がされていたことに感動した。

3 参加した感想。

子供から年配の方までたくさんの方が参加していたことに驚きました。

同じブースでは小学生のグループや家族でのグループが発表していて
すごいことだと思いました。

会場で「小学生が研究するには親の理解も必要だ」と聞き、

僕たちはたくさんの方のおかげで研究ができていると実感しました。

これからはこれを励みにして研究を進めていきたい。

参考

フェア開催に際しての取り組み

生物多様性交流フェアでは、環境への配慮の一環として、生物多様性と地球温暖化の問題とは密接不可分な関係にあることから、フェア開催中に使用する電力から発生する CO2 排出量をカーボン・オフセット。

カーボンオフセット (carbon offset) とは、不可避免的に排出してしまった二酸化炭素などの温室効果ガスを、別のところで吸収 あるいは削減して、排出に見合った分の埋め合わせをしようという概念で、二酸化炭素の排出を相殺 (offset) するという意味から、カーボンオフセットとよばれる。吸収や削減の手法としては、植林、森林保護、風力など自然エネルギーを活用した発電、非効率な老朽設備の省エネルギー設備への転換、温室効果ガスの地中貯留など。

生物の多様性に関する条約 (生物多様性条約)

「地球上の多様な生物をその生息環境とともに保全すること」、

「生物資源を持続可能であるように利用すること」、

「遺伝資源の利用から生ずる利益を公正かつ衡平に配分すること」

を目的としている。

この条約は国連環境開発会議 (地球サミット) に先立つ 1992 年 5 月 22 日に採択され、リオデジャネイロ (ブラジル) で開催された同サミットにおいて署名開放された。翌年の 1993 年 12 月 29 日に発効し、2009 年 12 月末現在、193 の国と地域がこの条約を締結。

日本も 1993 年 5 月に締結。



ブースでの発表の様子